

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                                                                                                     | R5年度計画                                                                                                                                                                                                             | R5年度<br>達成度 | 達成状況(R6.3月末)                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 摘要(R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入                                 | 評価委員の質問・意見                                                                            | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                                                                                           | 回答課   |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 1   | 学生が学習課程を理解し、学習計画に役立てるため、各学年の履修ガイダンスによる説明会の充実と、専任教員によるオフィスアワーの充実を図り、専任教員が責任をもって学生を育成する。また、授業内容の見直しを図り、アクティブ・ラーニングの科目を段階的に増加させる。【1】 | 全学年履修ガイダンスを基本として、適切な履修指導を行う。<br>専任教員によるオフィスアワーの時間を最低週4時間(2コマ以上)とすることについてカリキュラム改訂特別委員会において決定する。<br>アクティブ・ラーニング科目の増加について、令和6年度入学生からの新カリキュラムに反映されているかを各学科等で確認し進める。                                                    | 4           | 計画のとおり履修指導を行うことで、学生のスムーズな履修登録につなげることができた。<br>オフィスアワーの時間を計画のとおり決定し、学生指導の時間をこれまで以上に確保できることになった。<br>現カリキュラムに加え、新カリキュラムでもアクティブ・ラーニング科目が設置されたことから、学修者の能動的な学修への参加を取り入れられることとなった。                                                                                                                                    |                                                                       | アクティブ・ラーニング科目の増加について、「新カリキュラムでもアクティブ・ラーニング科目が設置」とありますが、各学科等で全ての科目で設置されたとのことでしょうか。     | 青山委員 | 各科目の性質上、各学科等で、全ての科目をアクティブ・ラーニングとして設置することはできませんが、新カリキュラムでも各学科の専門科目にアクティブ・ラーニング科目が設置されており、教養科目では、副専攻プログラムに係る科目を新たにアクティブ・ラーニング科目として設置しました。                                                                         | 教務課   |
|     |                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                    |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                       | 専任教員のオフィスアワーの平均値は何時間くらいでしょうか。また、学生の相談はどの程度の利用率でしょうか。                                  | 室谷委員 | オフィスアワーの平均は2.2時間ですが、実態としては、学生の要望に応じて対応する、昼休みに対応する、zoomで対応する等して、週4時間(2コマ)を確保するようにしています。学生の相談については授業の質問や卒業論文の指導等で各教員のもとに週に1名程度は訪れています。                                                                            |       |
| 2   | 学術情報リテラシー教育※1及びデジタルシチズンシップ教育を推進する。<br>【数値目標】【2】                                                                                   | 学術情報リテラシー教育活動の一環として行っている図書館ガイダンスへの参加総人数 1,500 名以上を目指し、学生の情報リテラシーを涵養する。                                                                                                                                             | 5           | 図書館ガイダンスの参加総数2,806名で学生の情報リテラシー教育を進めた。<br>(実績:対面でのガイダンス参加者1,977名、動画視聴829回)                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                       | 理解度テストのようなものはあるのでしょうか。                                                                | 室谷委員 | 主に新入生向けのガイダンスにおいて、説明した内容についてのWebテストを実施し、理解度を確認しながら進めています。                                                                                                                                                       | 総務課   |
| 4   | 学生、保護者、就職先企業・学校等を対象とした調査を計画的に実施し、教育ニーズ等の把握に努める。【4】                                                                                | 令和5年度は、IR室を設置し、学内からの要望に基づいた情報収集及び調査・分析を進めた上で、新入生入学動機等調査・在学生満足度等調査及び授業評価アンケート等を実施し、教学マネジメントを確立する上で教育ニーズ等を把握し、教育の改善に努める。                                                                                             | 3           | 新入生及び3年生を対象にアセスメントテスト(人材の能力や行動特性などを客観的に評価するテスト)を実施し、学生の特徴把握・分析を行った。(問題解決の思考力は、全体的に高い傾向。問題解決に向かう姿勢・態度は、若干低めの傾向など。)<br>分析結果は学内の自己点検評価実行委員会でも共有し、今後の教学マネジメントにも活用する。<br>新入生入学動機等調査、在学生(2～4年生)満足度等調査も行い、学生ニーズの把握に努め、学内で情報共有した。(入学動機:授業内容63%、学費52%、取得できる資格48%など)<br>(満足度調査のやや満足以上:本学での総合的な学び81%、授業70%、就職や資格取得55%など) |                                                                       | 授業評価アンケートを実施することになっていたが、実施しているか。もししていなければ、達成度は「3」が適切か。                                | 村田委員 | 授業アンケートは実施しております。(参考、【28】。)<br>また、授業等の質の改善を目的として、教員へのフィードバックも行っております。このため達成度は「3」といたしました。                                                                                                                        | 経営企画課 |
|     |                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                    |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                       | アセスメントテストの参加率はどの程度でしょうか。また、1年生と3年生を比較したときに能力等の向上はどの程度でしょうか。                           | 室谷委員 | アセスメントテスト受検率は、1年生が79%、3年生が69%でした。<br>アセスメントテストは、令和5年度からの開始であることから、学修成果の確認ができるのは、今回受検した1年生が、3年生になった時(2年後)となります。(令和6年度のカリキュラム変更の関係で、令和8年度から比較可能となります。)<br>なお、同一人物が1年次と3年次に受け、その結果を比較することにより、成長度や向上がわかる仕組みとなっています。 |       |
| 5   | 入学者選抜方法を点検し、適切な改善を図る。【5】                                                                                                          | 新たなアドミッションポリシーを踏まえ、各学科で定められている入学者選抜方法、出願資格について見直しを行い、適切な改善を図る。                                                                                                                                                     | 4           | 新たなアドミッションポリシー及び志願者動向を踏まえ、英文学科では入学者選抜方法を見直し、2025年度入試から学校推薦型選抜(一般)と一般選抜(前期)の定員変更(一般前期15名→20名)及び一般選抜(前期)の受験科目の変更(5科目→3科目)を行い、優秀な学生の確保及び志願者増加を図るべく改善した。                                                                                                                                                          |                                                                       | 受験科目を減らすこと、志願者の増加は、推定できますが、優秀な学生の確保との関係はどのようなことでしょうか。                                 | 原委員  | 今回の改正は、受験科目を減らし志願者の増加を目指す一方で、学校での活動等を評価する学校推薦型選抜の定員を5名減らし、学力主体で選考する一般選抜(前期)の定員を5名増加することにより、優秀な学生(学力が高い)を確保するものです。                                                                                               | 経営企画課 |
|     |                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                    |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                       | 本項目と直接関係はしないのですが、入試科目減少に伴う、入学後のカリキュラムの修正等は検討されているのでしょうか。(学習してこない学生のためのリメディアル教育のようなもの) | 室谷委員 | 今回の英文学科の例ですと、アドミッションポリシーに基づき、英語の配点を高くし、英語力を重視した試験形態に変更したため、入試科目が減少しても、入学者の学力が低いという認識はありませんが、必要に応じて入学後のカリキュラムの修正等を検討してまいります。<br>なお、学科によっては、総合型選抜や学校推薦型選抜の入学予定者に対し、大学入学後の学習のための準備として、英語力向上のための課題等入学前教育を実施しています。   |       |
| 7   | 入学志願者数 5,000 名以上を確保する。<br>【数値目標】【6】                                                                                               | 入学志願者が減少している要因を分析するとともに、入学センター運営委員会と広報委員会と連携して、重点エリアを絞る等、戦略的な入試広報を行う。また、地方会場のある地域の高校訪問、出前講座、大学説明会への参加を積極的に行い、大学の知名度アップを図り、入学志願者4,800名以上を目指す。<br>(高校訪問、出前講座、大学説明会:目標件数400件)<br>都道府県や地方会場ごとの志願者の動向を分析し、会場の見直しを行っていく。 | 2           | 訪問マニュアルを新規作成し、ターゲットを絞ったうえで高校訪問等を進め、(高校訪問:323件、出前講座:27件、説明会:55件、合計:405件)目標数を達成し、志願者増へとつなげた。<br>全国進学調査報告会を、入学センター運営委員会と広報委員会を合同開催し、志願者確保に向けた課題を共有した。<br>R6入学志願者は、総合型選抜164名、学校推薦型選抜(一般、IB、大学入学共通テスト利用)753名、一般選抜(前期)548名、一般選抜(中期)2,387名、合計3,852名で、前年比449名増であった。                                                   | IR室にて志願者情報等の分析を行い、入学センター運営委員会および広報委員会が連携し、効果的な入試広報を行い、継続的に志願者を確保していく。 | 高校訪問、出前講座、説明会で最も効果があったと考えられるのはどの取り組みでしょうか。                                            | 室谷委員 | 令和6年度新入生入学動機等調査の結果によると、学生が本学を知ったきっかけは、「担任教員や進路指導のすすめ」と回答した学生が42%であったことを考えると、本学の教員が高校を訪問し、高校の先生方に本学の魅力などをお伝えする高校訪問は、志願者獲得の上で最も効果があった取組であると考えています。                                                                | 経営企画課 |

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                                                                                                                                                                                           | R5年度計画                                                                                                                                                                                                                                                                                           | R5年度<br>達成度 | 達成状況 (R6.3月末)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 摘要 (R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入                                    | 評価委員の質問・意見                                                                         | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                | 回答課   |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 8   | カリキュラム・ポリシー※2、ディプロマ・ポリシー※3 に則ったカリキュラムの体系化を図り、単位の実質化・質の保証をするため、卒業必要単位数の見直しや科目数を削減したカリキュラムを再構築(改定)し、令和 6(2024)年度に開講する。また、カリキュラムの再構築(改定)に合わせ、全学共通教育科目と学科専門科目並びに大学院教育との連携を俯瞰的・可視的に把握できるよう、シラバス※4、コースツリー、科目ナンバリング等を整備 する。【7】 | 新カリキュラムについて全学共通教育科目と学科専門科目並びに大学院教育との連携を俯瞰的・可視的に把握できるよう、シラバス、コースツリー、科目ナンバリング等を整備し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに則った内容となっているか各学科・各専攻において確認作業を行う。また、新棟を中心に、A. 各学科・センターの授業、B. デジタル工房の活動、C. 地域連携プロジェクトの授業・課外活動、D. 教職支援センターの活動を展開し、これまで積み重ねてきた実績ある授業・事業に加え、新しい設備を活用した試行的な活動を令和5年度に実施し、令和6年度からの新カリキュラムに接続していく。 | 3           | 新カリキュラムのコースツリー等は計画のとおり整備することができたため、4月のオリエンテーションで活用する。シラバスの確認作業は、令和6年度から各授業担当教員がシラバス作成ガイドラインに沿ってセルフチェックすることとなった。また、新棟 (THMC) の新しい設備を活用した授業を展開できることが確認されたため、新カリキュラムでも実施していく。                                                                                                                                                                                            |                                                                           | カリキュラムツリーやマップの高校生向けの公開は考えているのでしょうか。                                                | 室谷委員 | 今年度末までに、ホームページ上での公開を予定しております。                                                                                                        | 教務課   |
| 10  | 「学び続ける力」を培うため、持続的発展教育 (ESD※5) の充実を図る。【数値目標】【9】                                                                                                                                                                          | 大学附属図書館ガイダンス・研究編、データベース編について、卒業論文制作に結び付けるため、講習会を開催する。また、キャリア支援に結び付けるため、就職活動に的を絞った新聞記事データベースガイダンス、東洋経済新報社雑誌記事データベース等のガイダンスを開催する。合わせて参加人数 100 名以上を目指す。                                                                                                                                             | 5           | 学生の「学び続ける力」を培うため、基礎的な図書館ガイダンスにとどまらず、興味のある分野についてさらに深く学ぶ機会を提供するため、専門講師を招聘して卒業研究や就職活動等に関するデータベース講習会を開催した。また、録画の学内公開も行ったところ、参加人数は415名であった。(当日及び対面での参加者 : 31名 及び動画視聴384回)。また、前年度の講習会の動画について継続して公開しているが、3月末現在、視聴回数は合計198回となっている。<br><br>内訳<br>・朝日新聞クロスサーチ(新聞記事索引)(当日参加11名、動画視聴回数96回)<br>・古典ライブラリー(古典辞書類)(当日参加14名、動画視聴回数38回)<br>・Japan Knowledge(各種辞書)(当日参加者 : 6名、動画視聴回数52回) |                                                                           | 学生の参加者の学年の内訳はどの様になっているのでしょうか。                                                      | 室谷委員 | 参加しやすくするため事前申込不要としており、Zoom等のオンライン開催や録画動画の視聴について、利用者の属性などを確認することができないため、参加者の内訳は把握していませんでした。ガイダンスの充実を目指し、今後はWebアンケート等での参加者情報の把握を検討します。 | 総務課   |
| 12  | 学生が自己の学習状況を客観的に把握し、自主的な学習を進めるために GPA※6 を活用する。また、GPA を履修指導の参考材料として活用し、履修選択、成績不振者への注意喚起としても活用する。【11】                                                                                                                      | 学期ごとに GPA を可視化し、教務委員会を通して教員へ提供し、教員と事務職員とが連携して履修指導、成績不振者の早期発見・指導に繋げ、また、学生の状況に応じて学生サポート室に対応を依頼する。                                                                                                                                                                                                  | 3           | 前期のGPAが1未満の学生は、学科で対応を検討するとともに、学生の状況に応じて学生サポート室に対応を依頼する仕組みとした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                           | GPA以外には、学生指導の基準はあるのでしょうか。                                                          | 室谷委員 | GPA以外に学生指導の基準は設けておりませんが、欠席が多い学生等については、各授業担当教員が学生サポート室へ連絡し、保健センターや各学科と連携して対応しています。                                                    | 教務課   |
| 14  | 大学での学習や研究に必要な基礎的情報技術及び社会人として必要な情報処理能力を習得させる。【数値目標】【13】                                                                                                                                                                  | 情報技術の基礎的スキルを身に着けさせるため、Word&Excel講座、PowerPoint 講座、情報活用講座などを開催し、延べ参加学生数 100 名以上を目指す。                                                                                                                                                                                                               | 4           | 4月に情報活用講座、6月にWord講座、7月にExcel講座、11月にPowerPoint講座を開催し、計110名が参加した。各講座の開催により、学生の情報技術及び処理能力の習得へつなげた。                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                           | 各講座の理解度テストのようなものはあるのでしょうか。                                                         | 室谷委員 | 各講座に係る理解度テストは実施しておりませんが、講座の形式が一時的な説明ではなく、講座中も指導員が細かく受講者の進捗確認・操作補助する中で、受講者が説明を聞きながら自身でPCの操作・成果物の作成を行う形式であるため、理解度テストの役割を果たすものと考えています。  | 経営企画課 |
| 18  | 学生ニーズ・社会ニーズの把握を行うため、卒業生・修了生への授業アンケート等を実施し、授業内容にフィードバックできる制度を作る。【17】                                                                                                                                                     | 令和3年度及び令和4年度のアンケート結果を踏まえ、アンケート対象者や実施方法の精査を行い、信頼度の高いデータを収集するため、回答率の向上を図り、内部質保証の充実に役立てる。また、令和5年度に設置するIR室により、学内からの要望に基づいた情報収集及び調査・分析を進めていく。                                                                                                                                                         | 2           | 直近3年間の卒業生・修了生を対象に授業アンケートを実施したが、回答率5%と前年度より若干低下した。調査結果は、IR室での分析を行い、翌年度以降の活用を図る。                                                                                                                                                                                                                                                                                        | アンケート結果をカリキュラム改定等にフィードバックできるような設問項目を設定する等、回答率の向上も含め、調査全体の設計について見直しが必要である。 | 少数の回答の中にも貴重なご意見が含まれていると、おもいますが、実際に採択した回答は何件かございますか。                                | 原委員  | 現状、採択に至った回答はございません。                                                                                                                  | 総務課   |
|     |                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                           | 卒業生・修了生を対象としたアンケートの回答率が5%というのは、かなり低いという印象である。原因分析ができているようなので、設計の見直しを実施することによってよいか。 | 村田委員 | 卒業生・修了生アンケートの回答率の低さについては、課題として挙げられているため、回答率向上に向けた設計の見直しを検討してまいります。                                                                   |       |
|     |                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                           | アンケートはどのような方式(オンライン・紙等)で行われたのでしょうか。                                                | 室谷委員 | オンライン回答です。                                                                                                                           |       |

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                                        | R5年度計画                                                                                | R5年度<br>達成度 | 達成状況(R6.3月末)                                                                                                           | 摘要(R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入                                                                | 評価委員の質問・意見                                                                                                                  | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                                                                                                         | 回答課 |
|-----|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 20  | 大学附属図書館のオンラインデータベース、オンラインジャーナル、オンラインブック等 Web によるサービスを充実する。【数値目標】【19】 | 全学的に利用可能で適切なオンラインデータベース、オンラインジャーナル、オンラインブックを今後も導入していく、電子ジャーナル、データベース等の導入数 20 件以上を目指す。 | 4           | データベース導入数は1件増えて22件となった。附属図書館運営委員会にてデータベースの見直しを協議し、データベースの入替や為替相場に影響を受ける海外のデータベースの契約内容の変更を行った。また、昨年に引き続き和書の電子書籍の充実に努めた。 |                                                                                                      | データベースの利用状況が分かりましたら、お答えください。                                                                                                | 室谷委員 | 利用状況は別紙(本資料最終ページに記載)の通りです。全体的な傾向としては、コロナ感染拡大防止のため休講となった令和2年度を除き、利用状況はここ数年同じくらいで推移しているものが多いです。                                                                                                                                 | 総務課 |
| 22  | 本学の教育研究の理念・目標に沿った教員組織を編制する。【21】                                      | 令和5年度教員配置計画に基づき、教員の公募等実施する。                                                           | 4           | 退職補充対応も含め、11名の教員の公募を実施し、9名採用に至った。                                                                                      | 今年度採用できなかった分野については、非常勤講師等に対応しながら、次年度も公募を実施し、採用していく。                                                  | 教員の採用にあたり、専門分野以外に、研究を主体とする教員、教育を主体とする教員等の役割に関する基準はあるのでしょうか。                                                                 | 室谷委員 | 基本的に、専門分野を中心とした研究、教育を担う教員を公募しているため、役割に関する基準はございません。                                                                                                                                                                           | 総務課 |
| 27  | ラーニング・コモンズ※7として学生の自学・自習スペースを整備する。【数値目標】【25】                          | 大学附属図書館学習室・研究スペースの年間利用件数 1,500 件以上を目指す。                                               | 2           | 3月末現在の大学附属図書館の学習室・研究スペース利用件数は、目標には届かなかったが1,099件の利用があった。利用を促すため、引き続き、周知活動を行う。                                           | 図書館ガイダンス時の紹介やX(旧Twitter)での周知の結果、利用が戻りつつある。令和6年度も引き続き、学習室利用基準の見直しを行う。                                 | 利用件数は、数値目標と比べてかなり乖離がある印象であるが、周知不足以外に原因がある可能性はないか。従前の評価結果等の活用状況を読ませていただき努力していただいていることは敬意を表するが、さらなる対応を期待したい。                  | 村田委員 | 令和2年度に、これまでの利用統計をもとに実現可能として目標を設定しました。コロナ感染拡大防止のため令和2年度から令和3年10月まで学習室の利用を停止したことにより、学習室を利用したことがない、利用できることを知らない学生が増えたことや、図書館以外に構内の学習スペース(5号館・6号館コモンズ)が増えたことが利用が伸びない要因だと考え、令和5年度は図書館ガイダンス時の紹介やTwitterでの周知に力を入れ、学習室利用基準の見直しを行いました。 | 総務課 |
|     |                                                                      |                                                                                       |             |                                                                                                                        |                                                                                                      | 目標に達しなかった主な原因は何でしょうか。                                                                                                       | 室谷委員 | 令和2年度に、これまでの利用統計をもとに実現可能として目標を設定しました。コロナ感染拡大防止のため令和2年度から令和3年10月まで学習室の利用を停止したことにより、学習室を利用したことがない、利用できることを知らない学生が増えたことや、図書館以外に構内の学習スペース(5号館・6号館コモンズ)が増えたことが利用が伸びない要因だと考えます。                                                     |     |
|     |                                                                      |                                                                                       |             |                                                                                                                        |                                                                                                      | 図書館ガイダンス時の紹介やTwitterでの周知に力を入れ、学習室利用基準の見直しを行った結果、利用が戻りつつあるとのことですが、令和4年度が1,009件で令和5年度が1,099件で微増となっています。戻りつつあると言うことの根拠をお示ください。 | 青山委員 | 以下の通り推移しており、利用増加が期待できると考えております。<br>年間数 (4-6月 3ヶ月の数)<br>令和元年度: 1,579件(482件)<br>令和2年度: 65件(3件)※教職員による利用<br>令和3年度: 431件(149件)<br>令和4年度: 1,009件(294件)<br>令和5年度: 1,099件(301件)<br>令和6年度: (433件)<br>※令和2年度～令和3年10月まで利用停止             |     |
| 29  | 教育に関する点検・評価を実施し、その結果に基づき教育の質の改善を図る。【数値目標】【27】                        | FD 講演会の教員の受講を促すとともに、当日受講できない教員向けにWeb上での動画公開を実施し、1 回あたりの受講率(アンケート提出率) 79%を目指す。         | 2           | 第2回FD研修会を2月14日に開催した。グループディスカッション形式であったため、オンライン併用ではなく、後日オンデマンド配信し、動画視聴者を出席扱いとした。当日出席者と動画視聴者を合わせた受講率は62%であった。            | 第2回の研修は、グループディスカッション形式であったため、参加しづらいと考える方もいたようであった。引き続きリマインドによる研修開催の周知を図るとともに開催形式も含めて、受講率の向上について検討する。 | 法人の評価を向上させるための重要な施策だと認識しておりますが、前年度より改善されていると思われませんが、不参加者への喚起は、どのようにされているのですか。                                               | 原委員  | オンデマンド配信が可能な研修の場合については、欠席者に対しオンデマンドでの受講依頼を行っております。                                                                                                                                                                            | 総務課 |
|     |                                                                      |                                                                                       |             |                                                                                                                        |                                                                                                      | 受講率が目標に届いていないが、検討している見直し案の早期実施を期待したい。                                                                                       | 村田委員 | 引き続き、研修開催、参加に向けた周知を図ってまいります。                                                                                                                                                                                                  |     |
| 30  | 教育に関する点検・評価を実施し、その結果に基づき教育の質の改善を図る。【数値目標】【27】                        | 他大学の業績評価サイクルを参考に本学の評価サイクルの素案を作成する。                                                    | 2           | 複数の大学の評価制度を入手できたが、検討までで素案の作成には至らなかった。他大学の評価制度をもとに、本学の評価制度を作成する。                                                        |                                                                                                      | 法人の評価を向上させるための重要な施策だと認識しておりますが、前年度より改善されていると思われません。                                                                         | 原委員  | 教員の人事評価については、導入の必要性を訴えてまいりましたが、学内での協議も必要なことから、導入にあたっては、他の国公立大学の導入状況や評価方法などを示しながら、導入に向けて理解を得られるように努めてまいります。                                                                                                                    | 総務課 |

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                                | R5年度計画                                                                                                                                  | R5年度<br>達成度 | 達成状況(R6.3月末)                                                                                                 | 摘要(R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入                     | 評価委員の質問・意見                                                                                                                                                          | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 回答課   |
|-----|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 31  | 開講科目の授業評価アンケートを実施し、授業の改善を促進する。【数値目標】【28】                     | 授業評価アンケート(専任+特任 A・B)実施率95%以上を目指すとともに、アンケート結果を科目担当教員等にフィードバックし、授業等の質の改善を促進する。                                                            | 2           | 後期授業アンケートを実施し、常勤教員(専任と特任 A・B)の実施率は62%であった。前期・後期合わせての実施率は67%。アンケート結果を各教員へ返却し、内容を踏まえたふり返りレポートの提出を依頼した。         | 引き続き、授業内でのアンケートの実施を依頼や、実施期間中のリマインドを実施し、実施率の向上を図る。         | 法人の評価を向上させるための重要な施策だと認識しておりますが、前年度より改善されていると思われません。                                                                                                                 | 原委員  | 教育の質の保証の観点からも、授業アンケートを実施することの必要性を伝えておりますが、実施率が向上しない現状です。今後、FD委員会等で改めて、アンケートの実施方法や活用方法について検討・協議してまいります。                                                                                                                                                                                                                                               | 総務課   |
|     |                                                              |                                                                                                                                         |             |                                                                                                              |                                                           | 実施率が目標と比べて、かなり乖離がある印象であるが、原因分析を深く掘り下げて実施する必要があるのではないか。従前の評価結果等の活用状況を読ませていただいたが、改善策について具体性に欠けるのではないか。                                                                | 村田委員 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |
|     |                                                              |                                                                                                                                         |             |                                                                                                              |                                                           | 令和4年度と比較して実施率が落ちています。この点、令和5年度は趣旨説明を丁寧にするともに、このアンケートが成績に影響しないこと等を説明することを必須化するとしていましたが、これは実現したでしょうか。上記を踏まえ、実施率が落ちている理由について、あらためてお聞かせください。また、アンケートの必須化の検討状況をお聞かせください。 | 青山委員 | 令和5年度は趣旨説明を丁寧にするとともに、このアンケートが成績に影響しないこと等を説明することを必須とし実施いたしました。担当教員がアンケート結果を確認する旨も周知したため、実施率が下がった可能性があると考えております。アンケートについては、教育の質の保証、授業改善の推進からも必要なものとして教員に実施を依頼しておりますが、理解が進んでいないと考えております。授業アンケートの実施、回答の活用等については、FD委員会等で改めて検討・協議して行きたいと考えております。                                                                                                           | 総務課   |
| 32  | 開講科目の授業評価アンケートを実施し、授業の改善を促進する。【数値目標】【28】                     | 授業評価アンケート(非常勤)実施率81%以上を目指すとともに、アンケート結果を科目担当教員等にフィードバックし、授業の質の改善を促進する。                                                                   | 3           | 後期授業アンケートを実施し、非常勤講師の実施率は70%であった。前期・後期合わせての実施率は75%であった。アンケート結果を各教員へ返却し、内容を踏まえたふり返りレポートの提出を依頼した。               | 引き続き、授業内でのアンケートの実施を依頼や、実施期間中のリマインドを実施し、実施率の向上を図る。         | 法人の評価を向上させるための重要な施策だと認識しておりますが、前年度より改善されていると思われません。                                                                                                                 | 原委員  | 教育の質の保証の観点からも、授業アンケートを実施することの必要性を伝えておりますが、実施率が向上しない現状があるため、引き続き、アンケートの実施に向けた周知を図ってまいります。                                                                                                                                                                                                                                                             | 総務課   |
|     |                                                              |                                                                                                                                         |             |                                                                                                              |                                                           | 実施率が目標に届かない主な原因は何でしょうか。                                                                                                                                             | 室谷委員 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |
| 36  | ラーニング・コモンズや空き教室を積極的に利用できる支援体制を整える。【32】                       | 現在使用しているラーニング・コモンズに加え、令和5年4月1日供用開始の新棟のラーニング・コモンズや空き教室の積極利用を促す。                                                                          | 3           | ラーニング・コモンズは、5号館、新棟(THMC)とも利用率が高く、学生の授業外学習の場として機能している。空き教室の利用についてはコロナ禍対応での計画であったため、利用は促していない。                 |                                                           | ラーニングコモンズの利用率を教えてください。併せて、数値目標ではありませんが、どの程度の利用率を目標的に考えているか、教えてください。                                                                                                 | 村田委員 | 授業期間中のラーニング・コモンズの利用率は、5割以上となっています。利用率は、概ね5割以上であれば適正であると考えております。                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 教務課   |
| 37  | 就職率(就職者数(進学者を含む。)÷就職希望者数×100)を令和8 年度末まで97%以上を維持する。【数値目標】【33】 | 本科のキャリア形成との連携、学年に応じた講座等の開催により就職に対する意識付けを行い、学生の希望に沿った進路指導、就職支援により、就職率(就職者数(進学者を含む。)÷就職希望者数×100) 97%以上を維持する。また、進路状況を早い段階で把握し、未決定者への支援を行う。 | 4           | 就職者740名(うち進学者51名)÷就職希望者752名(うち進学者51名)×100=98.4%(前年度97.5%)となり、未決定者への個別支援を実施するなど、きめ細やかな対応を行うことで、目標を達成することができた。 | 学生の進路決定状況を早い段階で把握し、個別相談会、合同企業説明会の開催等により、未決定者への就職活動支援を行った。 | 正規、非正規、職種等の内訳が分かれば、お答えください。                                                                                                                                         | 室谷委員 | 就職者689名のうち、正規は626名、非正規は63名です。また、職種等の内訳は以下のとおりです。<br>＜企業就職者:367名＞<br>正規359名、非正規8名<br>営業系:95名、事務系:88名、SE:50名、接客サービス:44名、介護・医療等の福祉系:16名、施工・生産管理:14名、学習塾等の講師:12名、金融:8名、ライター等のその他専門職:40名<br><br>＜教員就職者:181名＞<br>正規131名、非正規50名<br>・公立学校:158名、私立学校:23名<br>・小学校:114名、中学校:28名、高等学校:32名、特別支援学校:7名<br><br>＜公務員就職者:141名＞<br>正規136名、非正規5名<br>国家公務員:39名、地方公務員:102名 | 学生支援課 |

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                               | R5年度計画                                                                                                           | R5年度<br>達成度 | 達成状況(R6.3月末)                                                                                                                                                                                                      | 摘要(R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入                                                              | 評価委員の質問・意見                                                                                                                             | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 回答課   |
|-----|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 38  | 教員就職者数(臨時的任用を含む。)を令和 8 年度末までに 190 名以上を目指す。【数値目標】<br>【34】    | 各教育委員会の採用情報等(採用試験結果を含む。)を入手し、今後の指導等に活用する。また、教育関連企業から公立学校教員採用試験の最新情報や動向を入手し指導等に活用する。教員就職者数(臨時的任用を含む。)184 名以上を目指す。 | 3           | 教員就職者数は、公立学校158名、私立学校23名、合計181名(内訳は、正規127名、非正規54名)であり、184名以上という目標の達成には至らなかった。これは、教育現場の様々な課題から教員志願者数が減少していることも影響しているものと考えられ、本学においても教員採用試験受験者数が、令和5年度には210人に減少している。(令和4年度 234人)                                     | 引き続き、オンラインや電話により情報収集した各教育委員会の採用情報や教育関連企業から入手した動向や最新情報等を学生への指導に活用する。                                | 減少を止める特効薬はないとは思いますが、大学独自の取り組みはありますでしょうか。                                                                                               | 室谷委員 | 本学独自の教員志望者への支援策としては、同窓会各支部の支援を受け、自治体ごとの採用情報や採用試験に向けてのアドバイスなどを伺う同窓生との懇話会や本学卒業生の若手教員に採用試験の経験談や学校現場の現状などについて話を伺うオンライン懇話会を実施しております。また、教員採用試験受験予定者の受験地別のグループを作り、勉強会や情報交換の活動を支援しております。<br>なお、教員養成にあたっては、通常は教育実習でしか学校現場を体験することができませんが、市内小中学校等の協力もと、学校現場をより多く体験し学べるよう、1・2年次から「SAT」と言われる活動を授業として行っております。さらに、高大連携協定に基づき、高校教員を目指す学生を対象にキャリア支援プログラムとして、市内にあります都留興譲館高校において「高校教育体験実践活動」を実施しております。 | 学生支援課 |
| 43  | 民間企業への就職支援の充実を図る。【38】                                       | 自身の将来や就職に関する漠然とした不安等を低学年から気軽に相談できるキャリアカフェを開催する。新たな視点や気づきを見つけたり、進路を考えるためのアドバイスやサポートを行い、意識的に考える機会を増やし就職活動へ繋げる。     | 4           | 学生が自身の進路について考え、相談したり、キャリア支援センターを利用するきっかけとなるように、4～1月にキャリアカフェを合計54回開催し、延べ56名の学生が参加した。その後、参加学生全員が個別にキャリア面談の利用や講座等に参するなど、就職活動の支援を円滑に行うことができた。                                                                         | キャリアカフェがきっかけとなり、キャリア支援センターを利用したことのない学生の個別相談や講座への参加に繋がることができ、就職支援の充実が図られた。                          | 1～2年生へのキャリア教育の取り組みをお答えください。                                                                                                            | 室谷委員 | 正課では、1年生から履修できる社会人基礎力の醸成と強化を目的とした、「キャリア形成」を開講しています。正課外では、自己分析や自己発見のための職務適正テストや、ワークショップを通して自身の興味、関心、価値観を探る自己分析セミナーを実施しています。また、インターンシップにも力を入れており、学修の深化や学習意欲の喚起、職業意識の醸成などにつながるよう支援しています。                                                                                                                                                                                               | 学生支援課 |
| 44  | 民間企業への就職支援の充実を図る。【38】                                       | 対面、オンライン等により企業説明会や業界セミナーを開催し、企業とのマッチングを推進する。                                                                     | 4           | 学生が参加しやすいよう、学内での企業説明会(個別・合同)を対面やオンラインで開催し、企業とのマッチングの機会を設けたところ、延べ73社の企業が説明会や学内選考会を実施し、延べ145名の学生が参加した。また、人材情報サービス会社による求人紹介などの講座やマッチング会等を開催することで、学生の就職活動を支援することができた。                                                 | 企業就職において、学生が希望する業界、職種、勤務地等が様々なため、一人ひとりに合わせたマッチングが困難ではあるが、今後も採用意欲の高い企業情報などを中心に発信し、説明会やセミナー等を開催していく。 | 学生の就業に向けたマッチングは容易ではないと思うが、身近なところに目を向けると市内企業の情報(就業後の仕事内容等の学生が求めているもの)などもまだまだ学生にうまく伝わっていないと感じる。説明会やセミナー等の開催のほかにもマッチングに向けた取組を行っていく考えはあるか。 | 荻原委員 | 大学と市内企業間で情報交換を行い、企業とその魅力について、インターンシップや採用活動情報を通して段階的に学生に情報発信しています。また、企業側の求める人材やそこで働くイメージが持てるよう、求人票にワンポイントを記入して周知したり、個別面談や相談会などで企業や求人についての紹介等を行っています。さらにOB・OGとの座談会等により、市内企業の魅力や働き甲斐を卒業生から学生に直接伝える機会を設けていきます。                                                                                                                                                                          | 学生支援課 |
| 45  | 都留市内の企業への就職に向け関係機関との連携を図る。【39】                              | 都留市産業課、都留市経営者連絡協議会及び都留市商工会等と連携し、市内企業のインターンシップ、就職説明会を実施するなど、関係機関との連携を強化し、市内企業とのマッチングを推進する。                        | 3           | 都留市経営者連絡協議会、都留市、労働局、ハローワーク都留と連携し、8～9月にインターンシップを、3月に合同就職面接会を実施し、計16名の学生が参加した。また、ハローワークと連携し、個別相談会や未内定者相談会を4月、11月、1月に実施した。21名が参加し、市内企業とのマッチングを図った。市内への就職者は5名(うち企業1名)と少数であったが、市内に学生が就職したいと捉える企業が少ないことも影響しているものと考えられる。 | 市内に本学学生が就職したいと思える企業が少なくと学生が捉えていることも課題であり、都留市経営者連絡協議会等と連携し、市内企業の魅力や働き甲斐を学生に伝える機会を設けていく。             | 都留市以外の山梨県の各都市とも連携することにお考えはございませんか。                                                                                                     | 原委員  | 市内企業への就職を主眼に置きつつ、視野を広げて、山梨労働局やハローワーク、郡内地域では富士吉田市、国中地域では甲府市等と連携し合同企業説明会等を開催するとともに、県内企業への訪問や情報交換等により、採用意欲の高い企業を中心に学生に情報発信していきます。<br>また、大学で把握している卒業生の就職情報を元に市内企業や都留市経営者連絡協議会等と情報交換を行い、企業側が求める人材やそこで働くイメージが持てるような求人情報を提供するため、インターンシップや学内説明会、OB・OGとの座談会等に協力いただき、市内企業の魅力や働き甲斐等を卒業生から学生に伝える機会を設け、マッチングの機会を増やしていきます。                                                                        | 学生支援課 |
|     |                                                             |                                                                                                                  |             |                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                    | 市内に本学学生が就職したいと思える企業が少なくと学生が捉えていることも課題としているが、市内企業の魅力や働き甲斐を学生に伝える機会を設ける具体策があればお聞かせください。                                                  | 青山委員 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |
|     |                                                             |                                                                                                                  |             |                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                    | 市内企業に就職したOBに協力してもらい、例えばOBと学生との意見交換会を開催するとか、地元企業説明会の企業ブースに入ってもらう等、OBの生の声を聴かせてもらうのはどうか。                                                  | 荻原委員 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |
| 47  | 「高等教育等の修学支援新制度」を利用できない学生を支援するため、大学独自の授業料免除制度を維持・見直しを図る。【41】 | 大学独自授業料免除制度の審査判定基準で、免除となる家計点範囲を、「高等教育の修学支援新制度」の免除となる収入の範囲と同等となるよう規程の見直しを行う。                                      | 2           | 令和6年度に開始される修学支援新制度の制度改正に向け、本学独自授業料免除制度や奨学金制度の充実に向け検討を進めている。                                                                                                                                                       | 令和6年度から高等教育の修学支援新制度の支援対象が拡大され、当該制度による授業料の減免区分に合わせ、大学独自の授業料免除制度における審査基準及び減免額を見直す。                   | 免除となる収入の範囲を引き上げるということではよろしいでしょうか。                                                                                                      | 村田委員 | 大学独自授業料免除制度は、修学支援新制度を利用できない学生(高校卒業後3年を経過している学生、大学院生、私費留学生など)を対象としています。その他の学生の利用する、修学支援新制度とは収入要件等の基準が異なっております。そのため、今回の改正では、本学独自の授業料免除制度の基準を修学支援新制度と同一の基準に改めることとしております。なお、この改正により免除対象となる家計基準は見直しとなりますが、必ずしも引き上げとなるものではありません。                                                                                                                                                          | 学生支援課 |

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                      | R5年度計画                                                                                                                                    | R5年度<br>達成度 | 達成状況 (R6.3月末)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 摘要 (R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入                                                                                                                                                               | 評価委員の質問・意見                                               | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 回答課   |
|-----|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 48  | 独自の奨学金制度の見直し、充実を図る。【42】                            | 成績優秀者奨学金及びスタートアップ奨学金の対象人数及び金額について、学生の学習意欲向上に結び付くよう他大学を参考にしながら見直しを行う。                                                                      | 1           | 対象人数及び給付金額について、他大学の例を調査したが、予算を要することから令和5年度中の改正には至らなかった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 他大学の例を参考に引き続き検討を行う。                                                                                                                                                                                  | 他大学の例に習わず、都留文科大学の特徴(教育系等)をベースにした、独自の奨学金システムをお考えはございませんか。 | 原委員  | 日本学生支援機構の大学院生を対象とした貸与奨学金において、卒業後に教員として就職する学生の奨学金返還を免除する制度が令和7年度に向けて実施されることとなっています。今後、同制度が学部生へ導入される可能性も視野に、本学に關係する外部奨学金の動向を踏まえて検討していきます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 学生支援課 |
|     |                                                    |                                                                                                                                           |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                      | 予算措置ができず実施できなかったというのですが、令和6年度中に改正を行う予定、ということでしょうか。       | 村田委員 | 令和6年度中に改正を行い、令和7年4月に施行する予定としています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |
| 49  | 学生の自主的活動「チャレンジプロジェクト」の支援を行う。<br>【数値目標】【43】         | ポータルサイトにて学生の自主活動を支援する「学生チャレンジプロジェクト」を周知し、3件以上の実施を目指す。                                                                                     | 1           | 令和5年度における「学生チャレンジプロジェクト」は、3件の応募に対し2件の事業(①本学TsuruHumanitiesCenterの景観美化を目的とした「THMC flower project」、②令和6年能登半島地震の災害復興支援を目的とした「能登半島地震に係る災害ボランティア」)が採択され、全ての事業が終了した。目標件数を達成することができなかったが、学生の企画力・実行力やボランティア意識等を醸成することができ、本学の活性化と地域貢献に寄与することができた。                                                                                                                                         | 令和5年度においては、目標件数を達成することができなかったため、社会貢献や地域貢献につながる活動を行っている学生団体を中心に積極的に周知するなど周知方法の見直しを図り、より多くの学生・団体に本プロジェクトへの参加を促す。                                                                                       | 本制度は、中長期に展開するプロジェクトに対しても可能でしょうか。                         | 原委員  | プロジェクトの助成期間は、予算や学生の異動などを考慮し、現状は年度内としております。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 学生支援課 |
| 57  | 研究の質の向上のため、外部資金の獲得を促進する。<br>【数値目標】【51】             | 科学研究費の申請支援対策を強化し、令和5年度中に応募する科学研究費の採択率 30%を目指す。申請支援対策強化として、①勉強会・講演会(オンライン含む)を開催 ②応募書類(研究計画調書)の質向上のための事前チェックを行う。<br>※積算＝採択数/応募数 (R5.4～R6.3) | 2           | 科学研究費の申請支援として、①教員に公立大学協会主催の研修「科研費申請の最新動向」(R5.6.9)の開催について周知し、参加を促した。②事務担当者より科研費助成事業の内容周知、適宜リマインドを行った。事務担当者ですべての応募書類の事前チェックを行い、初めて科研費に挑戦する教員には、応募書類の作成方法について説明を行った。研究代表者として応募した31件のうち、3月末時点で5件が採択され、採択率は17.2%であった。(2件については、令和6年6月下旬に採否が決定)<br>※5/29*100＝17.2%(3月末時点)<br>研究分担者として応募した10件のうち4件が採択され、採択率は40%であった。 ※4/10*100=40%<br>研究代表者・研究分担者を含めた採択率は23.07%であった。<br>※9/39*100=23.07% | 引き続き科研費獲得のための勉強会・講演会を開催するとともに、科研費の個別相談や応募書類の事前チェックを行っていく。併せて科研費応募へのインセンティブとして「科学研究費採択推進交付金」により10万円を交付していることを改めて周知し、応募件数を増やすことを目指す。<br>また本学で採択された研究計画調書のうち、研究者本人(作成者)の承諾が得られたものについて閲覧できるような制度を検討していく。 | 科学研究費以外の外部研究費の獲得状況はどのような状況でしょうか。(民間との委託・共同研究、競争的資金等)     | 室谷委員 | 科学研究費以外の外部資金は2件獲得しております。<br>内訳は、環境研究総合推進費(独立行政法人環境再生保全機構の競争的資金):1件、日本文化人類学会研究助成金:1件です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 総務課   |
| 61  | 生涯学習、人材育成、文化、国際交流、理数教育等に関する共同事業や支援事業を実施する。<br>【53】 | 地域交流研究センター関係教員を核として、本学教員の知見を活用し、「市民公開講座」「子ども公開講座」など、幅広い世代に向けた講座を開催する。                                                                     | 4           | 各種講座は、年間を通して計画通り開催できた。<br>1月には、初めて中学生を対象とした「光の不思議」講座を開催したところ、定員に達し好評であった。<br>各講座を通して、生涯学習や人材育成を図ったが、本学を身近に感じてもらい、将来の進路の選択肢の1つとなることを期待する。                                                                                                                                                                                                                                         | 令和6年度に開催する子ども公開講座の中から、教員人事の関係で継続できない講座が出てくるため、代わりとなる講座について都留市生涯学習課と協議して進めていく。                                                                                                                        | 参加人数等の年ごとの変化が分かりましたらお答えください。                             | 室谷委員 | 新型コロナ感染症等の影響で、人数制限や中止とした講座がありますが、参加人数は次の通りです。<br>○「子ども公開講座」<br>令和元年度・・・6回開催、延べ人数113名<br>令和2年度・・・感染症の影響により中止<br>令和3年度・・・6回開催、延べ人数95名<br>令和4年度・・・7回開催、延べ人数117名<br>令和5年度・・・6回開催、延べ人数80名<br>○センター開講講座(市民公開講座含む)<br>令和元年度・・・15回開催、延べ人数370名<br>令和2年度・・・感染症の影響により中止<br>令和3年度・・・8回開催、延べ人数233名<br>令和4年度・・・16回開催、延べ人数291名<br>令和5年度・・・23回開催、延べ人数461名<br>○現職教員向け講座(外部団体主催含む)<br>令和元年度・・・2回開催、延べ人数111名<br>令和2年度・・・2回開催、延べ人数57名<br>令和3年度・・・8回開催、延べ人数193名<br>令和4年度・・・8回開催、延べ人数217名<br>令和5年度・・・8回開催、延べ人数186名 | 経営企画課 |
| 62  |                                                    | 都留市の市民大学「シリウスカレッジ」のプログラム作成に協力するとともに同講座の講師として本学教員を派遣し、都留市役所生涯学習課と共働する。                                                                     | 4           | 市と連携する中で、本学教員の専門性を活かした「シリウスカレッジ」のプログラムの策定、また、講師として教員の派遣並びに教室の提供などの協力により、事業を支援した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 都留市生涯学習課とは、引き続き事業の実施について協働する。                                                                                                                                                                        | 参加人数等の年ごとの変化が分かりましたらお答えください。                             | 室谷委員 | 「シリウスカレッジ」は、新たに令和4年度から定員30名(複数コース)で開講されました。<br>令和4年度・・・3コース合計25名受講。<br>令和5年度・・・3コース合計18名受講。<br>(令和6年度は2コース開講し、24名が受講中)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 経営企画課 |

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                                        | R5年度計画                                                                                                      | R5年度<br>達成度 | 達成状況(R6.3月末)                                                                                                                                            | 摘要(R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入                                                                        | 評価委員の質問・意見                                                                                | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                                        | 回答課          |
|-----|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 67  | 地域利用者に対し、教育研究に支障のない範囲で施設、所蔵図書資料、情報機器等の設備、調査・相談サービスを広く開放する。【数値目標】【57】 | 大学附属図書館の館内利用や所蔵図書資料の貸出し・複写サービスなど、学外者利用人数 560 名以上を目指す。                                                       | 2           | 学外の入館数は404名であり、新規登録者57名、貸出冊数307冊、情報機器の利用者49名、調査・相談サービスには22名の利用があった。                                                                                     | 学園祭の図書館イベントについて、参加者が130名(学外者57名)と前年より増えたが、全体的に前年度より利用が伸びなかった。令和6年度は、大学コンソーシアムつる所属者へのサービス拡大を予定しており、広報にも力を入れる。 | 実績が目標と比べて乖離がみられるが、原因の分析を実施していたら、教えてください。                                                  | 村田委員 | 令和2年度の目標設定時には、これまでの利用統計をもとに実現可能としてしました。その後、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学外者への開放を停止したことにより、これまでの利用者が離れたことが要因と考えられます。                                                    | 総務課          |
|     |                                                                      |                                                                                                             |             |                                                                                                                                                         |                                                                                                              | 前年度の学外利用者は962名で利用者が減少している。今後の利用者増の対策を具体的にお願いします。                                          | 青山委員 | 令和5年度から新型コロナウイルス感染症が5類に変更となり、さまざまな規制が緩和されたことから、利用者の増加が見込まれます。引き続き、利用者増加のため、市立図書館や大学コンソーシアムつる等と連携した利用の案内やポスター掲示、学園祭や市民講座等のイベントを通じた周知に力を入れてまいります。              |              |
| 69  | 行政や市民と教職員との対話の場を設けるなど、市の実状の把握やまちづくり事業等に関する情報の収集に努め積極的に参加する。【58】      | 大学教職員の専門的分野等の知識、技能を地域に役立ててもらうため市に情報を提供し、行政が設置・主催する審議会及び市民が対象となる講演会・セミナー等に積極的に教職員が参加し、行政や市民と意見交換を行う機会を増加させる。 | 4           | 市の事業である「シリウスカレッジ」について、講師の半数以上を本学の教員が務めている。また、市が新規に設置した協議会の委員に、本学教員が選出されるなど、行政や市民との意見交換の機会に前年度よりも多い延べ29名が参加した。                                           |                                                                                                              | まちの活性化に繋がるような取り組み(産業まつり、八朔祭り等)に参加した際、SAT事業のように単位として認められるような制度を検討してほしい。                    | 荻原委員 | 学生の活動が授業につながるような仕組み作りは検討してまいりますが、単位認定の仕組み上、指導教員が必要であり、イベントに参加することだけで、単位として認めることは難しい状況です。                                                                     | 総務課<br>経営企画課 |
| 70  | 市内に所在若しくは市に関係する高等教育機関や市内高等学校との連携に主体的に取り組む。【59】                       | 都留市及び市内に所在する健康科学大学、山梨県立産業技術短期大学校と連携し、大学コンソーシアムつるにおける事業を推進する。                                                | 2           | 4者連携による「大学コンソーシアムつる」での大学間交流について、「施設の相互利用」に向け、各大学の施設情報を提供・収集し、使用条件等について検討している。                                                                           | 大学等間での施設情報を提供・収集することにより、利用時の相互の体制を把握でき、実施に向けて準備段階である。今後は大学等と事務局で連携し、学内外の学生へ周知するための案内等を検討していく。                | 「施設の相互利用」は重要な要素だと思うが、互いの授業への参加や単位取得を認めるなど、学業に直接かかわる取り組みをしていたら、教えてください。                    | 村田委員 | 現在のところ、大学コンソーシアムつるは、学生間交流を目的として、市のイベントや各大学のイベント等に出展することを中心に活動しており、学業に直接かかわる取り組みは実施していません。なお、単位互換については、大学コンソーシアムつるにおいて、今後、制度上の課題等を整理し、今後検討を進めていく予定となっています。    | 経営企画課        |
|     |                                                                      |                                                                                                             |             |                                                                                                                                                         |                                                                                                              | 将来的には単位互換等の強い結びつきはあるのでしょうか。                                                               | 室谷委員 |                                                                                                                                                              |              |
| 71  | 市内小学校との連携協力により、教育フィールド研究における振り返り活動のプログラムを改善することで、現場教員に必要な力量を高める。【60】 | 教育フィールド研究において、実習生が実際に遭遇した具体的課題について、ケースカンファレンスを用いながらグループで分析を重ねることで振り返り活動のプログラムを改善し、子ども理解につなげ現場教員に必要な力量を高める。  | 2           | 計画のケースカンファレンスを行うことで、教員はプログラムの改善につなげ、学生は現場教員に必要な力量を高める取り組みとなっている。                                                                                        | 今後も「より良いSAT活動研究会」は定期的に開催し継続していくことが必要である。研究会であがった課題については、学部教員を含めた関係者でより深く情報を共有していく。                           | 達成状況等の説明を読むと十分目標をクリアできていると感じるが、なぜ達成度を「2」としているのでしょうか。                                      | 村田委員 | 教員によるプログラムの改善につなげる取り組みはできましたが、学生が教員となるために必要な力量をどのように高められたかの検証ができなかったため、「期待する結果を得るに至らず引き続き検討段階であるときを2」、とする実施要項に基づき「2」としました。                                   | 教務課          |
| 76  | 自治体、NPO、企業、文化団体等との連携による共同プロジェクトを実施する。【64】                            | 大学コンソーシアムつるを中心とした生涯学習事業への参画並びに教員派遣を推進する。また、市内文化団体と大学との共同事業を企画・推進する。                                         | 3           | 「シリウスカレッジ」の講師として、本学教員を派遣した。12月に市内の小学生親子を対象に「子ども宇宙教室」を、市民と本学学生が共同で企画し、望遠鏡での天体観測などを実施した。「コンソーシアムやまなし」に属する県内12大学で連携し、県内大学の紹介を1冊にまとめ、県内の高校へ配布するプロジェクトを実施した。 | 今後も自治体、文化団体等と連携し、共同事業を企画・推進する。                                                                               | 企業の社員のリスキリング等の活動は考えのでしょうか。                                                                | 室谷委員 | 都留市の市民大学事業である「シリウスカレッジ」に本学の教員を講師として派遣し、「情報活用とリテラシー」、「仕事・家事・育児とジェンダー」など社会人向けのリスキリング講座を本学教員により開講しています。                                                         | 経営企画課        |
| 78  | オンライン留学プログラムを策定し、実施する。【66】                                           | 提携校と調整し、引き続きオンライン留学プログラムを実施する。より多くの学生が参加できるよう内容を充実させる。                                                      | 2           | 本中期計画策定時はコロナ禍でありオンラインプログラムの充実を図る計画としていたが、5類感染症に移行され海外渡航が容易になったことからオンライン留学は1名であった。                                                                       |                                                                                                              | 今後、オンライン留学プログラムへの取り組みはどうなのでしょうか。また、海外渡航が容易になったとありますが、実際の留学者数はコロナ前の水準に回復していると考えてよろしいでしょうか。 | 村田委員 | オンライン留学プログラムは、コロナ禍により渡航できない学生への対応策として策定しましたが、今後は経済事情により渡航できない学生から要望があった場合に協定校と協議して実施します。留学者数については、コロナ前の2019年度は75名で、2023年度は117名となっておりますので、コロナ前より留学者は増加しております。 | 教務課          |
| 87  | 教職員の多面的な業務内容に関する評価システム(業績評価・改善システム)を構築する。【再掲】【75】                    | 他大学の業績評価サイクルを参考に、本学の評価サイクルの素案を作成する。【再掲】                                                                     | 2           | 複数の大学の評価制度を入手できたが、検討までで素案の作成には至らなかった。他大学の評価制度をもとに、本学の評価制度を作成する。                                                                                         |                                                                                                              | 困難な課題ですが、早急の実現をお願いいたします。                                                                  | 原委員  | 教員の人事評価については、導入の必要性を訴えてまいりましたが、学内での協議も必要なことから、導入にあたっては、他の国公立大学の導入状況や評価方法などを示しながら、導入に向けて理解を得られるように努めてまいります。                                                   | 総務課          |

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                                                                    | R5年度計画                                                                                                                 | R5年度<br>達成度 | 達成状況 (R6.3月末)                                                                                                                                                                                                                                  | 摘要 (R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入                                                                                                           | 評価委員の質問・意見                                                                            | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 回答課   |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 89  | 教員の昇給制度の見直しを行い、適切な昇任を行う。学内外における教育、研究、社会(地域)貢献等、多様な活動内容や職責をより適正に反映できるような不公平感のない人事評価のルールを作成する。【77】 | 学内外における教育、研究、社会(地域)貢献等、多様な活動内容や職責をより適正に反映できるような不公平感のない人事評価のルールを作成する。                                                   | 2           | 複数の大学の評価制度を入手できたが、素案の作成には至らなかった。他大学の評価制度をもとに、本学の評価制度を作成する。                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                  | 困難な課題ですが、早急の実現をお願いいたします。                                                              | 原委員  | 教員の人事評価については、導入の必要性を訴えてまいりましたが、学内での協議も必要なことから、導入にあたっては、他の国公立大学の導入状況や評価方法などを示しながら、導入に向けて理解を得られるように努めてまいります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 総務課   |
| 91  | 実効性のある監査体制を整備し、内部監査機能の充実を図る。【79】                                                                 | 室員が実施する内部監査では、新たに大学監査協会に入会し、監査手法を取得するとともに、他大学の監査実施状況などを参考に定期監査を年1回以上実施し、業務運営及び会計処理の適正化を図る。                             | 3           | 新たに大学監査協会へ加入し、研修内容(監査手法や監査のポイント等)を活かす中で、計画どおり内部監査を実施し、適正に業務を執行していることを確認した。                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                  | 令和5年度以降に他大学の監査実施状況を調査した結果があればお聞かせください。また、大学監査協会へ加入した具体的な効果をお聞かせください。                  | 青山委員 | 東京都立大学では内部監査として、防災管理点検や環境にかかる諸対応などテーマに沿った監査を実施していることが分かりました。また、大学監査協会主催の研修(「監事監査の進め方」や「大学ガバナンスにおける監事機能の充実とIR活用の可能性」など)に参加することにより監査手法を取得することが出来ました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 経営企画課 |
| 93  | 市と協議しながら、計画的に大学固有の職員を採用し、専門的能力を発揮することができる人材養成に努める。【81】                                           | 採用計画に基づき、大学固有職員の採用試験を実施する。若手職員の研修を充実させ人材養成に努める。                                                                        | 3           | 採用計画に基づき、大学固有職員の採用試験を実施し、プロパー職員2名を採用した。また、新規採用職員及び採用2年目の職員に対しては、人材育成のための研修改を指定して受講させた。(人材育成の研修機会を設けた。)                                                                                                                                         |                                                                                                                                                  | 研修改→研修会(訂正)                                                                           | 原委員  | 修正しました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 総務課   |
| 94  | 教員の人事評価については、評価システムを構築し、給与等への反映などインセンティブに活用する。また、大学固有職員は、市職員の評価システムを参酌するなかで試行運用し、昇任昇給等に反映する。【82】 | 教員の人事評価については、試行実施に向けて評価項目、評価者等具体的な評価のしくみや内容を精査する。給与等への反映についても、引き続き検討する。<br>大学固有職員の人事評価については、令和6年度以降の評価反映を視野に入れ、試行実施する。 | 2           | 大学固有職員の人事評価については、令和5年から試行実施した。<br>教員の人事評価については、施行実施に向けて現在検討中である。                                                                                                                                                                               | 教員の人事評価を実施するにあたっては、明確な根拠及び教員の理解が必要であり、かつ、組合との交渉も必要となるため、時間を要する。                                                                                  | 困難な課題ですが、早急の実現をお願いいたします。                                                              | 原委員  | 教員の人事評価については、導入の必要性を訴えてまいりましたが、学内での協議も必要なことから、導入にあたっては、他の国公立大学の導入状況や評価方法などを示しながら、導入に向けて理解を得られるように努めてまいります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 総務課   |
| 96  | 学生、教職員の定期健康診断を実施する。<br>【数値目標】【84】                                                                | 学校保健安全法に基づき、学生及び教職員に対し、健康診断を実施するとともに、結果をもとに保健指導を実施する。<br>・学生に対する健診<br>・教職員に対する健診                                       | 2           | 学生に対する健診については4月に実施し、実施率は1年生が、99.3%、全学生で94.6%であった。健康診断を受診したすべての学生に保健指導を実施し、要指導学生については経過観察を行うことで、学生の健康維持に努めた。<br>教職員の健康診断については11月に実施。また人間ドックなど個別の健診を受診した教職員に対しては、随時提出を依頼した。その結果、受診率は教員67.3%、職員93.0%、全体で79.5%であった。健診結果をもとに保健指導を行うことで教職員の健康維持に努めた。 | 学生については、本学の健診だけでなく外部医療機関での健診も認めることとし、期間内に受けられなかった学生への受診勧奨を強化する。<br>教職員については、健診日時を10月にすることで学内健診を受けやすくする。また今年度より大腸がん検査を新たに追加し、内容の充実を図り、受診率の向上を目指す。 | この項目については、なかなか実績値が向上しない印象がありますが、昨年度の目標値と達成率を教えてください。<br>様々な努力をされていることは、大いに評価したいと思います。 | 村田委員 | 令和5年度の健康診断の目標値、受診率は、<br>学生:目標値 94%、受診率 94.6%(R4年度94.1%)<br>教職員:目標値 設定なし、受診率79.5%(R4年度74%)です。受診率は上昇しておりますが、健康診断は学校保健安全法等により義務付けられていることから、受診率の向上に繋がるよう学生、教職員への対策を講じております。<br><br>＜学生の受診率向上のための対策＞<br>健康診断の受診を学生健康保険組合による医療費給付の要件とし、受診勧奨を行っております。また、受診データを基に就職活動等に使用できる健康診断書の無料発行を可能にすることで、受診率が低下傾向にある4年生の受診にも繋がっております。<br><br>＜教職員の受診率向上のための対策＞<br>受診しやすいよう定期健康診断の日程を調整し、会議日程への表記、教授会での案内や個別メールにより周知しております。また、個別の人間ドック等を受診した場合は、結果を保健センターに提出するようメール等により周知しております。なお、定期健康診断の未受診者、人間ドック等の受診者には個別に連絡をとり受診を促すとともに、結果の提出を数回依頼するなど、受診率の向上に努めております。 | 学生支援課 |
| 99  | 大学職員の職能成長(SD:スタッフ・ディベロップメント※9)による人材育成及び資質向上計画に基づき多様な研修を実施する。【87】                                 | オンデマンドの研修を活用するなど全職員が研修に参加できるような体制をとる。                                                                                  | 3           | 公立大学協会の研修システムを活用し、オンデマンド研修を集合研修として受講または個別受講の機会を設けた。                                                                                                                                                                                            | 対面での研修は、講師の都合でオンデマンド形式がとれないため、全職員の受講が難しい。                                                                                                        | 令和5年度の公立大学協会のオンデマンド研修の参加率をお聞かせください。                                                   | 青山委員 | 公立大学協会のオンデマンド研修の参加については、職員からの報告を求めているため実施率の集計ができておりません。今後は、報告を求め、参加率の集計を実施してまいります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 総務課   |

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                                                       | R5年度計画                                                                                                                                            | R5年度<br>達成度 | 達成状況 (R6.3月末)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 摘要(R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入                                                                                                                                                                        | 評価委員の質問・意見                                                                                                 | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                                                                   | 回答課   |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 101 | 科学研究費補助金への採択率の増加に努める。<br>【数値目標】【88】                                                 | 科学研究費の申請支援対策を強化し、令和5年度中に応募する科学研究費の採択率 30%を目指す。申請支援対策強化として、①勉強会・講演会(オンライン含む)を開催 ②応募書類(研究計画調書)の質向上のための事前チェックを行う。<br>※精算＝採択数/応募数 (R5.4～R6.3)<br>【再掲】 | 2           | 科学研究費の申請支援として、①教員に公立大学協会主催の研修「科研費申請の最新動向」(R5.6.9)の開催について周知し、参加を促した。②事務担当者より科研費助成事業の内容周知、適宜リマインドを行った。事務担当者ですべての応募書類の事前チェックを行い、初めて科研費に挑戦する教員には、応募書類の作成方法について説明を行った。研究代表者として応募した31件のうち、3月末時点で5件が採択され、採択率は17.2%であった。(2件については令和6年6月下旬に採否が決定)<br>※5/29*100＝17.2%(3月末時点)<br>研究分担者として応募した10件のうち4件が採択され、採択率は40%であった。<br>※4/10*100=40%<br>研究代表者・研究分担者を含めた採択率は23.07%であった。<br>※9/39*100=23.07% 【再掲】 | 引き続き科研費獲得のための勉強会・講演会を開催するとともに、科研費の個別相談や応募書類の事前チェックを行っていく。併せて科研費応募へのインセンティブとして「科学研究費採択推進交付金」により10万円を交付していることを改めて周知し、応募件数を増やすことを目指す。<br>また本学で採択された研究計画調書のうち、研究者本人(作成者)の承諾が得られたものについて閲覧できるような制度を検討していく。<br>【再掲】 | 教員数に対して科学研究費応募者数ほどの程度でしょうか。また、インセンティブ以外に何か取り組みはあるのでしょうか。                                                   | 室谷委員 | 教員数108名(専任・特任A・特任B)に対して、科学研究費の研究代表者として応募した教員は31名でした。<br>※31/108*100＝28.7%<br>インセンティブ以外の取組としては、科研費申請のための研修会の開催、個別相談や応募書類の事前チェックを行っております。                                                 | 総務課   |
| 108 | 自己点検・評価を実施し、その結果を踏まえて関係組織に対して改善策を示し、大学の方針を踏まえ全学的見地から調整を行う。【94】                      | 自己点検・評価実行委員会が策定した評価サイクルに則り、関係組織から提出された評価や改善の内容を精査するとともに、内部質保証確立のために、評価手法も随時見直しを行っていく。                                                             | 2           | 令和3、4、5年度を一つの区切りとして、自己点検・評価シートを作成し、7月開催の第2回自己点検・評価実行委員会において同シートを用いて、課題や改善の取組法を出し合い精査したが、改善策の提示までには至らなかった。                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                              | 中間評価を実施していることは大いに評価できるが、改善策の提示までできなかったのは残念。代替として、各担当部署で改善策を策定し、事務局で取りまとめている、という理解でよろしいか。                   | 村田委員 | 令和5年度内には改善策の提示までは至りませんでしたが、提示された課題に対して各担当部署ではなく、令和6年度の自己点検・評価実行委員会において、<br>A評価:改善の取り組みを学科内で継続して取り組んでいく<br>B評価:学内の他の機関との連携で対応を図る<br>C評価:これまでの取り組みで対応済<br>の区分に分けて評価を行い、対応の方向性を示すことができました。 | 経営企画課 |
| 109 | 認証評価機関による外部評価を定期的に実施する。【95】                                                         | 令和2年度に外部評価を受審し、認証済みであるが、評価機関から指摘を受けた内容(学習成果の可視化など)について、2024年7月の改善報告に向けて体制を構築する。                                                                   | 2           | 令和2年度に外部評価を受審し、認証済みであるが、その際に指摘を受けた内容(学習成果の可視化など)について、令和6年7月の報告に向け、改善報告書のたたき台を作成し、学長を含め学内で協議した。<br>また、次期認証評価機関に関しては、他大学の動向も踏まえる中で、公立大学に適した評価機関の検討も行った。                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                              | 達成状況の説明を読む限りにおいては、順調に進捗していると考えられるが、なぜ達成度は「2」なのか。                                                           | 村田委員 | 令和6年7月の報告に向け、改善報告書のたたき台を作成しましたが、改善報告書の整備に関する検討段階であったため、評価基準及びその判断の目安に従い、達成度を「2」とさせていただきます。                                                                                              | 経営企画課 |
| 118 | 情報セキュリティポリシーに基づき、大学構成員の情報モラルの意識向上を図る。【103】                                          | 情報セキュリティポリシーに基づき、大学構成員が守らなければならない事項について周知し、情報セキュリティの維持に努めていく。                                                                                     | 3           | 学生生活ハンドブックに情報セキュリティポリシーを掲載し、大学構成員が守らなければならない事項を周知し、情報モラルの向上を図った。<br>情報セキュリティに関するアンケートを大学構成員を対象に実施し、情報モラルの意識づけを図った。回答率は8%程度であったが、情報セキュリティの維持に問題ない回答内容であった。                                                                                                                                                                                                                               | 情報セキュリティに関するアンケートに対する意見を確認し、適時内容の見直しを行う。<br>また、大学構成員の情報モラル意識向上に向け、有効なアンケート方法の検討や情報セキュリティポリシー、ガイドラインの周知を継続して行う。                                                                                               | 大学構成員を対象としたアンケートの回答率が8%では、統計上有効な結果が得られたとは言えないのではないか。なぜ回答率が上がらないか原因分析を行い、今後同様なアンケートを実施する際の参考とする必要があるのではないか。 | 村田委員 | 実施したアンケートの内容・ボリューム、実施時期・方法、リマインド回数、回答期間の設定など回答率が低かった原因分析を行い、次回以降のアンケート実施の参考とします。                                                                                                        | 経営企画課 |
| 119 | 市が進めるセーフコミュニティ事業に積極的に参加し、安全・安心な大学としての環境整備を推進する。【104】                                | 市が進めるセーフコミュニティ事業における対策委員会等に参画している学生を把握し、市と連携し大学の安全・安心について広報活動等を通して推進する。                                                                           | 2           | 市のセーフコミュニティ事業に参加している学生を把握し、本学に取入れられそうなものを模索して、安全・安心な大学環境の整備を推進した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                              | 達成状況の説明を読む限りにおいては、順調に進捗していると考えられるが、なぜ達成度は「2」なのか。                                                           | 村田委員 | 市と連携した広報活動においては特段なかったため、本項目の達成度としては「2」とさせていただきます。今後、市と情報共有しつつ、市のセーフコミュニティ事業を学生に周知していきます。                                                                                                | 経営企画課 |
| 121 | コンプライアンスの強化 法令及び学内諸規定に基づく適正な法人運営を行うとともに、大学教職員に対しては指導や研修の実施体制を整備しコンプライアンスを徹底する。【106】 | 令和4年度に引き続き、コンプライアンス研修等により、教職員の法令遵守に対する意識付けを図る。                                                                                                    | 3           | 教職員対象のコンプライアンス研修を12月20日に実施し、173名が参加し、教職員の法令遵守に対する意識付けを行った。<br>(実績 教員89名、職員84名)                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                              | コンプライアンス研修の参加率をお聞かせください。また、令和6年度以降の実施計画についてお聞かせください。                                                       | 青山委員 | 教員79%、職員84%です。<br>令和6年度以降も、年1回の研修開催を予定しており、内容については、より実践的なものになるよう見直しを行ってまいります。                                                                                                           | 総務課   |
|     |                                                                                     |                                                                                                                                                   |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                              | 研修内容の理解度テストのようなものあるのでしょうか。                                                                                 | 室谷委員 | 実施しておりません。                                                                                                                                                                              |       |

第3期中期計画に係る令和5事業年度業務の実績一覧

| No. | 第 3 期 中 期 計 画                                                                       | R5年度計画                                                                                                                                                        | R5年度<br>達成度 | 達成状況(R6.3月末)                                                                                                | 摘要(R6.3月末)<br>計画達成に向けての<br>課題や解決策等を記入    | 評価委員の質問・意見                                                                                                | 委員   | 法人の回答                                                                                                                                                                                                                             | 回答課 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 122 | コンプライアンスの強化 法令及び学内諸規定に基づく適正な法人運営を行うとともに、大学教職員に対しては指導や研修の実施体制を整備しコンプライアンスを徹底する。【106】 | オンラインでの研修参加やオンデマンドでの研修を実施する等、多様な研修を検討し、参加しやすい環境を整え、研修参加率95%を目指す。                                                                                              | 3           | 学内の研修はオンライン併用で実施するほか、学外の研修として対面式の宿泊研修や、業務時間中にいつでも参加できる公立大学協会の研修システムを活用したオンデマンド研修を採用するなど、多様な研修を受講できる仕組みを整えた。 |                                          | 数値目標の項目ではないことは理解していますが、参考に実際の参加率を教えてください。                                                                 | 村田委員 | 各種研修がございますが、平均して、教員75%、職員86%程度です。                                                                                                                                                                                                 | 総務課 |
|     |                                                                                     |                                                                                                                                                               |             |                                                                                                             |                                          | 多様な研修に対する研修参加率の計算の仕方をお教えてください。また、目標は95%ではなく100%にすべきだと思いますが、如何でしょうか。                                       | 青山委員 | 研修参加率は、参加者/対象者×100で算出しております。研修当日にやむを得ず欠席する場合もあるため、目標は100%にはしておりませんが、全職員が研修へ参加するよう引き続き周知してまいります。                                                                                                                                   |     |
| 124 | 教職員に対し、法令遵守等に関する多様な研修会等を実施する。【107】                                                  | 研究不正に関する基本方針や行動規範について啓発活動を行うとともに、研究不正防止計画を推進するために、コンプライアンス教育もしくは研究倫理教育を実施する。<br>コンプライアンス教育については常勤教員における理解度チェックテスト正答率100%を目指す。研究倫理教育については常勤教員の修了証書の提出100%を目指す。 | 3           | 令和5年10月18日(水)に外部講師を招き、研究倫理・コンプライアンス研修を行った。受講対象者110名のうち、110名全員が対面又はオンデマンドにて受講をした。また理解度確認テストの正答率は84.3%であった。   | 引き続き研究不正に関する基本方針や行動規範について定期的に啓発活動を行っていく。 | 受講対象者110名はどのように決めているのでしょうか。                                                                               | 青山委員 | 全教員(専任・特任A・特任B)と科学研究費を受給している名誉教授・非常勤講師を受講対象としています。令和5年度は教員108名、名誉教授・非常勤講師4名、合計112名が受講対象ですが、傷病休職中1名、研究費未受給1名については受講対象外としています。                                                                                                      | 総務課 |
| 126 | 個人情報の保護に関する規程に基づき、適正な個人情報の保護に努める。【108】                                              | 改正後の「公立大学法人都留文科大学における個人情報の保護に関する規程」について、全職員に変更点を明確に周知し、個人情報保護に関する取り扱いの徹底を図る。                                                                                  | 1           | 素案作成にとどまり、職員に対する個人情報保護に関する取扱いの徹底に至らなかった。                                                                    | 今後、素案に基づき関係各課との協議を進める。                   | 今後どのように変更点を周知し、取り扱いの徹底を図っていくのか、具体的な実施スケジュールについて、教えてください。                                                  | 村田委員 | 現行規定の改正を行うこととなるので、学生募集の始まる時期までには改正し、一斉メールや学内サイトを通じて、教職員へ周知いたします。                                                                                                                                                                  | 総務課 |
| 128 | ハラスメントの防止及び多様性に対する理解を深めるための教育を推進する。【109】                                            | 全職員が受講できるような、人権等に関する研修を実施する。                                                                                                                                  | 3           | 人権等に関する研修を2月29日に開催し、職員24名が参加した。講師の都合で複数回設定できなかったが、各担当からの出席を依頼し、極力多くの職員が受講できるようにした。                          |                                          | 数値目標でないことは理解していますが、24名の参加は全職員ではないと思います。「全職員が受講できるような研修を実施する」としている中で、評価を「3」とした根拠を教えてください(仕組みは作ったということですか)。 | 村田委員 | ハラスメント防止や人権、多様性やジェンダーに関する必要性が求められる中で、職員向けの研修として実施できた点、全職員が受講できるような研修の仕組み(複数回の設定やオンライン併用)を作成できた点で、評価を「3」といたしました。<br>なお、今回の研修については、講師の都合で複数回の研修が設定できなかったため、全職員の参加はかなわず、出席可能であった職員が参加しております。引き続き、研修の機会を設けて、ハラスメント事案が少なくなるよう努めてまいります。 | 総務課 |

【No.20: 参考資料】大学附属図書館データベース利用状況

| No   | データベース名                             | 種類              | 項目名                    | R1      | R2      | R3      | R4      | R5      |
|------|-------------------------------------|-----------------|------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1    | ProQuest                            | 海外電子ジャーナル・新聞    | データベース検索回数             | 387,807 | 651,441 | 450,203 | 328,756 | 183,870 |
| 2    | JSTOR                               | 海外電子ジャーナル       | 検索回数                   | 1,656   | 1,251   | 840     | 1,509   | 1,194   |
| 3    | National Geographic Virtual Library | 海外電子ジャーナル       | アクセス数                  | 242     | 349     | 334     | 449     | 101     |
| 4    | 東洋経済DCL                             | 国内電子ジャーナル       | 利用ログ                   | 6,710   | 8,211   | 6,932   | 5,245   | 4,801   |
| 5    | 日経BP雑誌記事索引                          | 国内電子ジャーナル       | アクセス数                  | 688     | 940     | 841     | 699     | 530     |
| 6    | ProQuest eBook                      | 海外電子ブック         | 閲覧タイトル数                | 630     | 513     | 603     | 561     | 480     |
| 7    | LibrariE                            | 国内電子ブック         | ログイン数                  | －       | －       | －       | －       | 714     |
| 8    | MaruzenebookLibrary                 | 国内電子ブック         | アクセス数                  | 90      | 1,393   | 171     | 34      | 80      |
| 9    | KinoDen                             | 国内電子ブック         | 統計なし                   | －       | －       | －       | －       | －       |
| 10   | Britanica School                    | 海外データベース(辞書)    | 検索ヒット件数、ドキュメント等閲覧件数等合計 | 229,368 | 98,412  | 47,936  | 80,274  | 131,650 |
| 11   | Japan Knowledge                     | 国内データベース(辞書)    | 検索回数                   | 27,167  | 115,988 | 153,778 | 172,240 | 206,764 |
| 12   | 古典ライブラリー                            | 国内データベース(辞書)    | 利用状況(ログイン回数)           | 497     | 1,009   | 1,049   | 1,094   | 914     |
| 13   | 和歌俳諧ライブラリー                          | 国内データベース(辞書)    | 利用状況(ログイン回数)           | 1,316   | 1,740   | 1,736   | 2,208   | 2,390   |
| 14   | 朝日新聞クロスサーチ                          | 国内データベース(新聞)    | ログイン成功回数               | 6,097   | 8,104   | 6,943   | 6,058   | 5,957   |
| 15   | ヨミダス歴史館                             | 国内データベース(新聞)    | 検索回数                   | 15,249  | 17,875  | 15,090  | 15,001  | 11,697  |
| 16   | 毎索                                  | 国内データベース(新聞)    | 総アクセス数                 | 2,217   | 2,993   | 2,469   | 2,280   | 1,827   |
| 17   | 山日ニュース                              | 国内データベース(新聞)    | 統計なし                   | －       | －       | －       | －       | －       |
| 18   | Web OYA-bunko                       | 国内データベース(雑誌)    | 延べログイン数                | 176     | 223     | 238     | 199     | 131     |
| 19   | ざっさくプラス                             | 国内データベース(雑誌)    | 検索結果                   | －       | －       | 1,296   | 1,814   | 2,091   |
| 20   | D1-Law                              | 国内データベース(判例)    | ログイン数                  | 167     | 107     | 131     | 98      | 136     |
| 21   | 官報                                  | 国内データベース(官報)    | 統計なし                   | －       | －       | －       | －       | －       |
| 22   | J-DAC                               | 国内データベース(雑誌・資料) | 統計なし                   | －       | －       | －       | －       | －       |
| 上記合計 |                                     |                 |                        | 680,077 | 910,549 | 690,590 | 618,519 | 555,327 |